

公開資料

令和4年度

全国学力・学習状況調査結果

令和4年4月19日実施



我孫子市立並木小学校

○小学校国語＜R4 並木小学校＞

◎本校の平均正答率が県66%，全国65.6%を上回っている。

すべての領域についてよく理解できている児童が多い。

互いの立場や意図を明確にしながらかし合い、自分の考えをまとめることができる児童が多い。想像しながら物語文を読むことができる児童が多い。漢字を文の中で正しく使うことができる児童も多い。

○課題等

話すこと・聞くこと

◇必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる児童が多い。

◇目的や意図に明確にして、計画的に話し合うことができる児童が多い。

書くこと

◇文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる児童が多い。

◇文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる児童が多い。

読むこと

◇物語の全体像や人物像を想像しながら読むことができる児童が多い。

◇登場人物の相互関係について、叙述をもとに捉えることができる児童が多い。

◇登場人物の行動や気持ちについて、叙述をもとに捉えることができる児童が多い。

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく読んだり、書いたりすることができる児童が多い。

◇話し言葉と書き言葉との違いを理解している児童が多い。

◆言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることにやや課題がある。

※問題形式が記述式の問題において、無解答率の割合がやや高かった。

◇…全国平均と比較してよくできている点 ◆…課題のある点

○小学校算数＜R4 並木小学校＞

◎本校の平均正答率が県62.0%，全国63.2%を上回っている。

すべての領域についてよく理解できている児童が多い。

プログラミングに関する問題ができる児童が多い。「 1050×4 」など、空位のある整数の乗法の計算に課題がある。割合について、数量の変化と割合の関係を考察することに課題がある。

○課題等

数と計算

◇「 $1470 \div 3$ 」などのわり算を正しく計算することができる児童が多い。

◇ 85×21 の答えが1470より大きくなることを考察できる児童が多い。

◆「 1050×4 」など、空位のある整数の計算をすることにやや課題がある。

図形

◇正三角形をかくことができるプログラムを書くことができる児童が多い。

◇辺の長さや角の大きさに着目して、ひし形をかくことができるプログラムを正しく選ぶことができる児童が多い。

◇示されたプログラムで、かくことができる図形を判断することができる児童が多い。

変化と関係

◇百分率で表わされた割合を分数で表わすことができる児童が多い。

◇百分率で表わされた割合と基準値から、比較量を求めることができる児童が多い。

◆果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの果汁の割合を考えるなど、数量と割合の関係についての理解にやや課題がある。

データの活用

◇表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目し、ある項目に当たる数を求めることができる児童が多い。

◇分類整理されたデータをもとに、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することができる児童が多い。

◆目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題がある。

※どの問題においても、無解答が少なかった。

◇…全国平均と比較してよくできている点 ◆…課題のある点

○小学校理科＜R4 並木小学校＞

◎本校の平均正答率が県63.0%，全国63.3%を上回っている。

すべての領域についてよく理解できている児童が多い。

実験器具について、よく理解できている児童が多い。自然の現象から得た情報を分析して解釈し、自分の考えを記述できる児童が多い。光の性質や昆虫の体のつくりの理解に課題がある。

○課題等

A区分 エネルギー

◇鏡で跳ね返した日光の位置が変化していることをもとに、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、追加手順を書くことができる児童が多い。

◇問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果をもとにして書くことができる児童が多い。

◆光の性質について（日光は直進すること）の理解に課題がある。

A区分 粒子

◇メスシリンダーの正しい使い方を理解できている児童が多い。

◇水溶液の凍り方について、実験の結果をもとに、それぞれの水溶液が凍る温度を見出し、問題に対するまとめを選ぶことができる児童が多い。

◇凍った水溶液について、試してみたいことをもとに、見出された問題内容を記述することができる児童が多い。

B区分 生命

◇ナナホシテントウの成長について、自分の観察記録と新たに追加された他者の観察記録をもとに、問題に対するまとめを記述することができる児童が多い。

◆ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを、昆虫の体のつくりの特徴をもとにして説明することに課題がある。

B区分 地球

◇冬の天気と気温の変化をもとに、問題に対するまとめを選ぶことができる児童が多い。

◇夜の気温の変化について、他者の予想をもとに、記録の結果を表したグラフを選ぶことができる児童が多い。

◇…全国平均と比較してよくできている点 ◆…課題のある点

児童質問紙から見えてくる並木っ子児童像

基本的な生活習慣

- 朝食を毎日食べているかの質問に対し、95%以上の児童が「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答し、全国平均を約2ポイント上回った。
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ているかの質問に「寝ている」「どちらかといえばそうしている」と回答した児童の割合は約85%で、全国平均を約2ポイント上回った。

朝食を摂ることや一定の就寝時刻にするなど、基本的な生活習慣を身に付けている。

家庭学習、読書の習慣(学習時間等)

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしているかの質問に「勉強をする」「どちらかといえばする」と回答した児童は、約75%で全国平均を約3ポイント上回っている。
- 学校の授業以外に1日2時間以上学習していると回答した児童の割合が約3.5%で全国平均を約5ポイント上回っている。一方、学習時間が1時間以内の児童の割合は約35%であった。
- 学校の授業以外に1日30分以上読書をすると回答した児童の割合は約5.0%で全国平均を約1.3ポイント上回っている。
- 新聞を読んでいるかの質問に「毎日読む」「週1～3回読む」と回答した児童の割合は約20%で、全国平均を約7ポイント上回っている。

本校の児童の家庭学習の状況を分析すると、自分で計画を立てて学習する児童が多い。しかし、学習時間を見ると、比較的長時間学習している児童とそうでない児童に大きく分かれている。また、授業以外にも読書をしたり、新聞を読んだりしている児童が全国平均より多い。

主体的・対話的で深い学びの視点による学習の取組状況

- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたかの質問に対し、「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と回答した児童の割合が約76%で全国平均を約10ポイント上回っている。
- 5年生までの授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたかの質問に対し、「取り組んでいた」「どちらかといえば取り組んでいた」と回答した児童の割合は、約85%で、全国平均を約6ポイント上回っている。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているかの質問に対し、「できている」「どちらかといえばできている」と回答した児童の割合は約78%で全国平均を約2ポイント下回っている。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているかの質問に対し、「できている」「どちらかといえばできている」と回答した児童の割合は約90%で、全国平均を約12ポイント上回っている。

自ら進んで学習できるような手立てを講じ、自分の考えを伝えたり、友達と話し合ったりする活動を取り入れた授業に取り組んでことで、年々ポイントが向上してきている。しかし、対話から自分の考えを深めたり、広げたりすることには依然として課題がある。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、引き続き工夫をしていく必要がある。

自己有用感, 挑戦心, 達成感等

- 自分には、よいところがあると思うかの質問に対し、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は約76%で全国平均よりも約3ポイント下回っている。
- 将来の夢や目標を持っているかの質問に対し、「持っている」「どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合は約85%で全国平均よりも約3ポイント上回っている。
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしているかの質問に対し、「やり遂げる」「どちらかといえばやり遂げる」と回答した児童の割合は約95%で全国平均よりも約8ポイント上回っている。
- 人が困っているときは進んで助けているかの質問に対し、「助けている」「どちらかといえば助けている」と回答した児童は約93%で全国平均よりも約4ポイント上回る割合であった。
- 人の役に立つ人間になりたいかの質問に対し、「なりたい」「どちらかといえばなりたい」と回答した児童の割合は約97%で全国平均を約2ポイント上回っている。
- 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しているかの質問に対し、「挑戦している」「どちらかといえば挑戦している」と回答した児童の割合は、約73%で全国平均とほぼ同じである。

将来の夢や目標を持ち、決めたことを最後までやり遂げる気持ちは高い。また、人の役に立ちたい気持ちや困難にチャレンジする気持ちも高い。しかし、自信がなく、自己有用感が低い傾向がある。児童一人一人のよさを認め、そのことを児童が感じられるように働きかけ、自信を持たせていく必要がある。また、粘り強く課題に取り組むことができるよう、引き続き働きかけていく必要がある。

国語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

- 国語の勉強は好きかの質問に対して、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は約68%で、全国平均を約8ポイント上回っている。
- 国語の授業の内容はわかるかの質問に対して、「わかる」「どちらかといえばわかる」と回答した児童の割合は約93%で、全国平均を約9ポイント上回っている。
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うかの質問に対して、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は約95%で全国平均を約3ポイント上回っている。

「生き生きと主体的に学ぶ児童の育成」を目指して国語の研修を行ってきたが、興味・関心を高め、見通しや目的意識を持たせて、文章を読み、書き、話し合う活動をさらに充実させるよう、授業改善に取り組んでいく必要がある。